

【議事】 計3

(2) 災害監視について

資料 3-2-1 (ALOS 利用検討のための会議の活動) を事務局が、資料 3-2-2 (国土地理院の活動) を村上亮 総括研究官が、資料 3-2-3 (JAXA の活動) を堀川理事説明した。その後、下記のようなやり取りがあった。

尚、資料 3-2-4 (考え方) は議題 1 と同様に説明はなく討議もされなかった。

有信：良く纏めて貰えた。キーワードは常時観測である。従って静止観測衛星が急に出てきた¹。これをしっかりと議論したい。JAXAは技術のロードマップを示した。これは良いが利用のロードマップも必要である。タイムフレームを入れ、何を優先するかを議論する場が欲しい。

青江：静止の見通しを聞かせて欲しい。役に立てられるものか。

JAXA 堀川：検討している。常時観測は魅力がある。しかし、周回軌道の60倍の距離なので、高い分解能が要求される。周回衛星でシステム構築し、並行して高分解能センサーの開発を進め、実現に向かおうと思っている。

茂原：トータルシステムを扱う、GEOSに相当する組織が日本に在るのか。衛星以外を利用してデータをとる方法もある。

¹ JAXAの資料 (3-2-3) の「技術ロードマップ」に書かれているが、説明しては居なかった。しかし、静止軌道に災害監視の衛星を置くのは時期尚早に過ぎるのではないか。「静止軌道は早期警戒衛星を置くのに利用できる。」程度の技術段階なのではないか。

る。現場は早く、高精度に、高頻度にと要求するが、衛星には不得意²なこと。衛星が得意なのは長期観測である。

JAXA 堀川：茂原先生のご指摘のように、地上と連携したシステムで考えている。地上システムは天候の問題が有るので、衛星も必要な要素である。

青江：飛行機やヘリコプタでは出来ないことが有るのではないか。

茂原：トータルシステムとしての検討がなかったので指摘した。この場で議論するのではないかもしれないが。

米倉：資金ポートフォリオはどうなっているのか。3分野に集中³すると1/3になるのか。

JAXA 立川：JAXAの予算の3割位が使われることになる。掛かる費用は単年度で積み上げ、計算はできている。

青江：今日「こういう形で」と事務局が提示したが、重要な物が出てきており、非重要が出されずにいるのではないか。

米倉：プロジェクトのトータルコストはざっと言っていくらになるのか。数兆円必要になるのでは。

堀川：JAXA分で700億円。その他少々である。

² 素人に誤解を与える発言ではないか。「運用する衛星の数がある程度限られている中で、」との仮定があり、「数が限られてしまうと不得意になる。」のである。米国の軍事衛星のように沢山の衛星があれば、不得意ではなくなる。ただし、災害監視を目的に、そのような膨大な費用は掛けないであろう。従って、「災害監視にも利用できる衛星」を用意する方策を考えると良いのかも知れない。

³ 「3」の数値は何を捉えて言っているのか掴めなかった。

河野：地上付近でやるのは自国周辺に限られるが、衛星は違う。日本を対象にして作っても、他の所のデータも取れる。科学観測の場合、遅れるがデータは公開される。日本の（周回衛星）も経度を変えたり高度を変えたりするのではないか。例えば、GPS は世界で役立っているが DOD が作った物で、スクランブルがかかると飛行機が落ちる心配が有る。日本が取ったデータは完全にオープンにするのか。NASA、ESA に比べて金は少ない、しかもインド、中国も入ってきている。そんな状況の中、説明を聞いていると、日本内部にこもっているように感じる。

事務局：データは原則公開である。安全上の問題⁴があるなら制限をかける。日本の税金を使うので日本の役に立つのが第一の目標である。周回衛星なのでGEOSSの場を借りるなどし、広く利用されるようにしている。

小池：CEOS から発展し IGOS になり、更に発展して GEOSS になった。GEOSS の大きな違いは参加 68 カ国中 3 カ国がコミットメントしていることである。勿論これはノンリーガルバウンドであるが。

また、災害分野で日本のデータが大いに利用されている。それは L バンドを使ったことによる。

⁴ 誰が問題を察知して、制限するとの命令を発するのか。JAXA や RESTEC には訓練された人間は居ないと思う。従って、他の用途で使おうとしている者には制限がかからず、いつも提供しているのに日本に不当な圧力を掛けた国に制限をかける（或いは、制限すると脅す）程度のことしかできないのではないか。

米倉：自由に利用できることは重要であり、情報を公開すべき⁵である。最近ではウェブトゥーウェブで入手できるようになっている。

小池：もともと「デジタルアース」の頃から公開していたが、なかなか上手くいかなかった。更に手を変えても上手くいかなかったが、災害に絞り込んだところ乗ってくる国が多数⁶になった。わが国が尊敬される国になる重要な貢献だと認識し、この仕事に携わっている。

⁵ 無条件の「べき」論は警戒する。その先は思考停止になってしまう。

⁶ 変化の原因の一つに「災害に絞り込んだ」ことがあるかも知れないが、全てでは無いように思う。「通信技術が進化した」「データが蓄積された」「データ処理技術が進化した」など、「時期が来た」と「絞り込んだ」のとが今出会ったのではないか。